

## S06a あすかによる2型セイファート銀河の観測

上野史郎、小山勝二、栗木久光、林一蔵（京大理物）、あすかチーム

ASCAによって約10個の2型セイファート銀河を、0.5-10 keVバンドで観測した。ほとんどのスペクトルは、高エネルギーバンド(3-10 keV)に、強い低エネルギーカットオフを示す連続成分をもち、低エネルギーバンド( $< 3$  keV)には、ほとんど吸収を受けていない別の連続成分をもっていた。

ASCA以前の観測との比較から、ハード成分が約4年の間に $1/2 \sim 1/3$ に減光していることがわかった。これは、ハード成分がコンパクトな中心核からきていることを支持する。また、ハード成分の強い吸収量や鉄K殻輝線強度は、これまでのセイファート銀河の統一モデルの枠組で説明できた。

吸収を受けていない低エネルギー成分は、統一モデルの枠組において、散乱成分として説明できる。観測した低エネルギー成分の起源に制限を与えるために、渦巻銀河内のスターバースト領域や個々の天体から予想されるX線放射の総和と、われわれの観測したソフトX線フラックスの比較を行なった。個々のソースからのX線強度の総和を予想するには、 $L_X - L_B$ 関係や $L_X - L_{\text{FIR}}$ 関係(David et al. 1992, ApJ, 388, 82)を用いた。我々のサンプルのいくつかは、この関係から予測されるよりも強いX線放射を示した。これら soft excess のスペクトルの傾きが、AGNのハード成分よりも急な傾向が見られた。このX線放射の起源として散乱成分が妥当であるかを検証する。